

教育課程とカリキュラム

愛知教育大学は、広域の拠点的作用をはたす教育大学として、人間理解と真理探究に努め、教育が直面する現代的課題への対応力を有し、子どもたちの未来を拓くことができる豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた専門職業人の養成を使命としています。この使命を達成し、ディプロマ・ポリシーに基づいた学生を育成するために、全課程の学生が受講する「共通教育科目」と、学校教員養成課程・教育支援専門職養成課程それぞれで学びを深める「専門教育科目」で教育課程を編成・実施しています。

全課程の学生が受講する科目です

共通教育科目

- 教養科目
- 外国語科目
- 日本国憲法
- スポーツ科目
- 情報教育入門
- があります。

教養科目の科目群	基礎 教養科目	初年次演習、キャリアデザイン科目 多様な学修歴を有する入学者に対応できるように、大学生活や社会に出る準備段階としての学修意欲を高め、 学習規律を身に付けます。
		課題探究科目 （市民リテラシー／多文化リテラシー／科学リテラシー／ものづくりリテラシー） 学校現場で求められている「課題を発見する力」「情報を読み取る力」「複眼的に物事をとらえる力」「他者と協働する力」 「解決に導く力」等の主体的な問題発見能力や能動的な学修活動能力を育成します。
	教育実践 教養科目	教職教養科目 （教職論／教育原論／特別支援教育基礎／発達障害のある児童生徒理解基礎） 教育実践を支える職業人の役割について考えるとともに、新しい持続可能な社会に向けた、ユニバーサルデザインの 学校教育の基盤について、多面的に捉えて理解します。
		現代的教育課題対応科目 （ジェンダー・セクシュアリティと教育／外国人児童生徒支援教育／情報の活用と管理／学校保健・学校安全） 学校現場で対応の要望が高まる外国人児童生徒支援教育、学校安全等を題材に、新しい教育の機会均等や マネジメントの在り方について探ります。
実践力育成科目		

実践力育成科目は、子どもの生活実態を知り、子どもとのコミュニケーション能力を養い、感性を磨くなど、教育実践を支えるための実践力を高めることを目的としています。1年次は、居住地の小中学校等を訪問して体験的に児童生徒の学びや学校生活に触れる「学校体験活動入門」を行い、2年次は、教育施設等にて、教育活動の補助を週1回のペースで実践する「学校体験活動Ⅰ」があります。3・4年次は、「学校体験活動Ⅱ」、「地域協働教育体験活動」の2科目から1科目を選択し履修します。

1年次

学校体験活動入門

必修

2年次

学校体験活動Ⅰ

必修

3・4年次

学校体験活動Ⅱ・地域協働教育体験活動

選択

（2科目から1科目履修）

先輩Voice



学校教員養成課程
義務教育専攻 音楽専修2年
愛知県立半田東高等学校出身

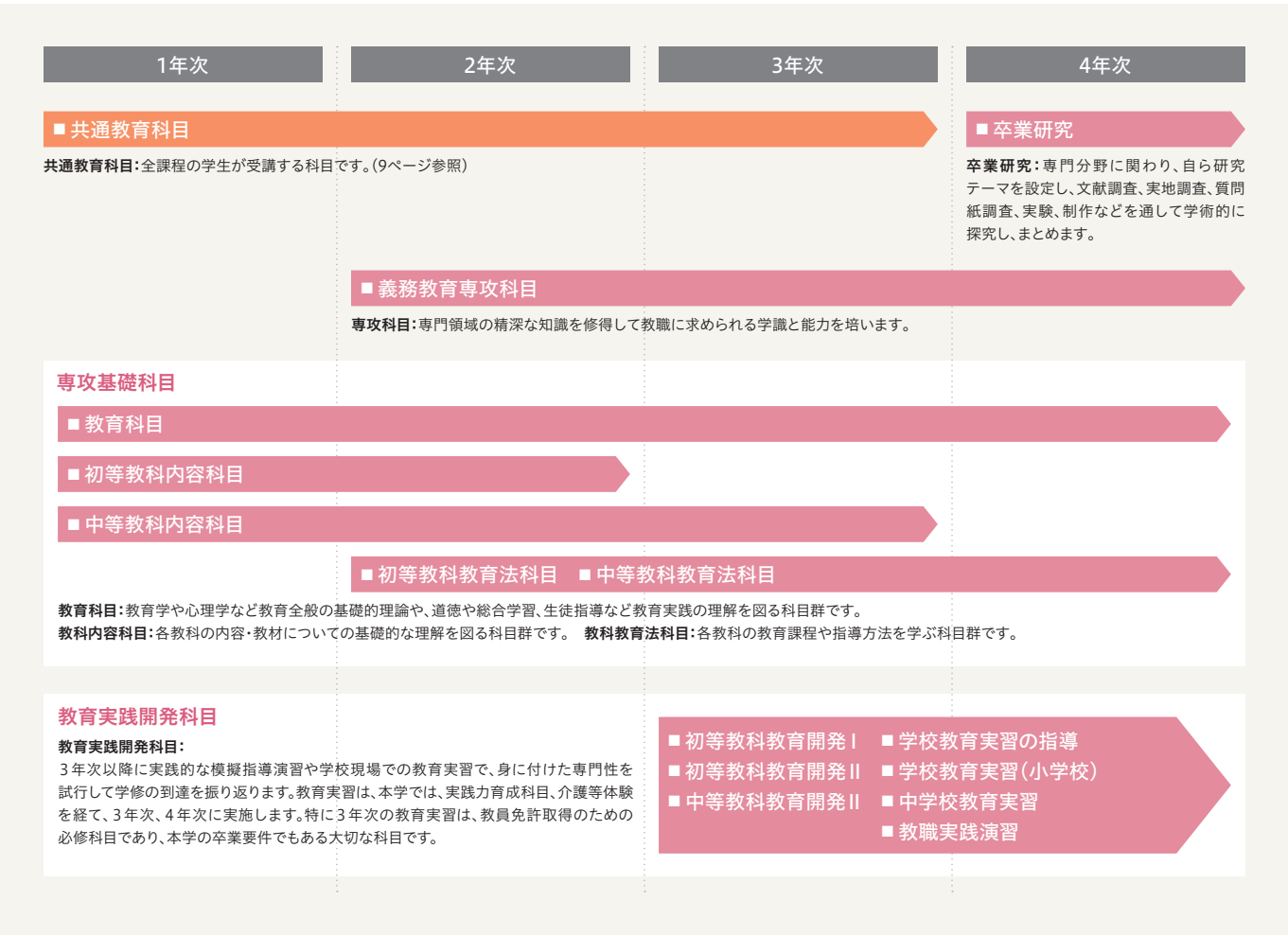
教師の何気ない一言が、子どもたちの大きな一歩を踏み出すきっかけになるのだと実感しました。

「学校体験活動Ⅰ」では、授業の学習サポートをしたり、休み時間には子どもたちと一緒に遊んだり、多くの学年の児童と触れ合うことができました。印象に残っているのは、高学年の授業での児童とのやりとりです。挙手を迷っている児童がいて、近づいてみると他にはない意見が書かれていました。「いいこと書いてるじゃん！」と声をかけた次の瞬間、その児童は自信を持って手を挙げてくれて。教師の一言が子どもの行動を後押しできるのだと、教職の魅力を改めて実感しました。教員になるためには知識とともに、実践力が必要です。愛教大では1年次から教育現場での実習機会が豊富に用意されているので、その一つ一つを実践力を養う貴重な機会として生かしていきたいです。

学校教員養成課程4年間の学び

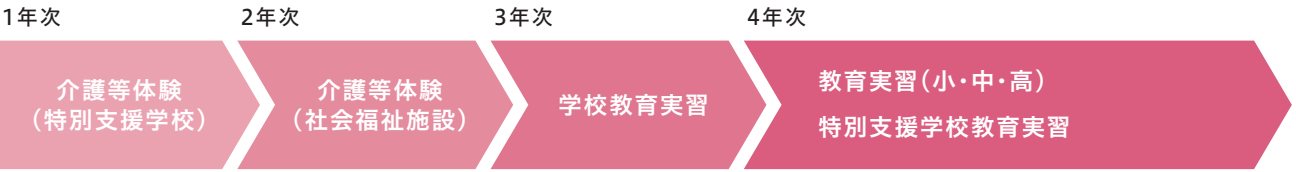
義務教育専攻教科指導系10専修における履修例

■ 共通教育科目
■ 専門教育科目



教育実習、介護等体験

学校教員養成課程では、教員免許取得のため、
1・2年次に「介護等体験」を、3・4年次に「教育実習」を行います。



■ 介護等体験 | 1・2年次 小・中学校の教員免許取得に必須

体験的学修として小学校および中学校の教育職員免許状(教員免許)を取得しようとする者が必ず履修しなければならないものです。一般的な介護等体験の内容は、障害者、高齢者等に対する直接的な特別支援、介護、介助だけでなく、話し相手、散歩の付き添い、行事の補助などの交流等の体験など幅広い活動が予定されています。体験内容はそれぞれの学校、施設等で異なります。

■ 学校教育実習 | 3年次 必修

卒業要件として履修が必須の教育実習です。「学校教育実習」では、実習態度や、幼児・児童・生徒の理解と指導、学級・保健室経営や保育活動、道徳指導について特に重視をした実習を行います。

■ 学校種別実習 | 4年次 選択 ※ただし、特別支援教育専攻学生は必須

学校教育実習とは別の校種の教育実習です。学校教育実習での経験を生かしつつ、さらに学生が専攻する専門性に則った学習指導の個人立案や、自己課題の解決活動について特に重視をした実習を行います。

教育実習

先輩Voice



学校教員養成課程 義務教育専攻
社会専修4年
愛知県立豊田南高等学校出身

子どもたちの学びの姿勢に触れた実習で、
教師という仕事の楽しさを実感！

教育実習が始まる前は不安と緊張が入り混じり、「授業をうまく進められるのか」「3週間やりきれぬのか」と、考えるほど自信を失いそうでした。それでも実習先でのたくさんの経験を通じて、その不安は楽しさへと変わっていきました。印象に残っているのは、小学校4年生の社会見学です。浄水場を見学した子どもたちが次々と疑問を持ち、それを職員の方にたずねて解決する様子を見て、「こんな学びの場を提供できる先生になりたい」と強く思いました。自分が担当した郷土の偉人をテーマにした授業でも、子どもたちが自発的に課題に取り組んでくれたのが、とてもうれしかったです。ある児童は独自にインタビューを行い、また別の児童は授業で触れた本を購入し、熱心に読み込んでくれました。子どもたちが主体的に学び、成長していく姿を間近で見られたことは、教師を目指す上で貴重な経験となり、「絶対にもう一度この場に立とう」と心に決めました。

教育実習

先輩Voice



学校教員養成課程 義務教育専攻
学校教育科学専修4年
愛知県立豊橋東高等学校出身

この子たちならどう反応するだろう？
試行錯誤する中で見られた、子どもたちの成長。

実習先は、以前に「学校体験活動Ⅱ」で関わったことのある小学校。子どもたちと再会できることに期待しながらも、一人で授業を行うという初めての経験に緊張も感じていました。実習では国語・社会・算数など、計18時間の授業を担当。「きっと子どもたちはこういう反応をするだろう」と普段の子どもたちの様子をもとに、指導教員と効果的な指導法について考え、授業構想を練りました。そんな中、自然災害をテーマにした社会科の授業では、子どもたちが自ら考え取り組む姿を見ることができ、感動したことを覚えています。前に立って話してもなかなか聞いてくれないなど、苦勞した場面も少なくありませんが、指示の伝え方を工夫するなど課題を乗り越える中で、自分も少し成長できたように思います。今後も子どもたちと一緒に成長できる教師を目指し、努力を続けていきます。

教育実習

先輩Voice



学校教員養成課程 高等学校教育専攻
理科専修4年
愛知県立西春高等学校出身

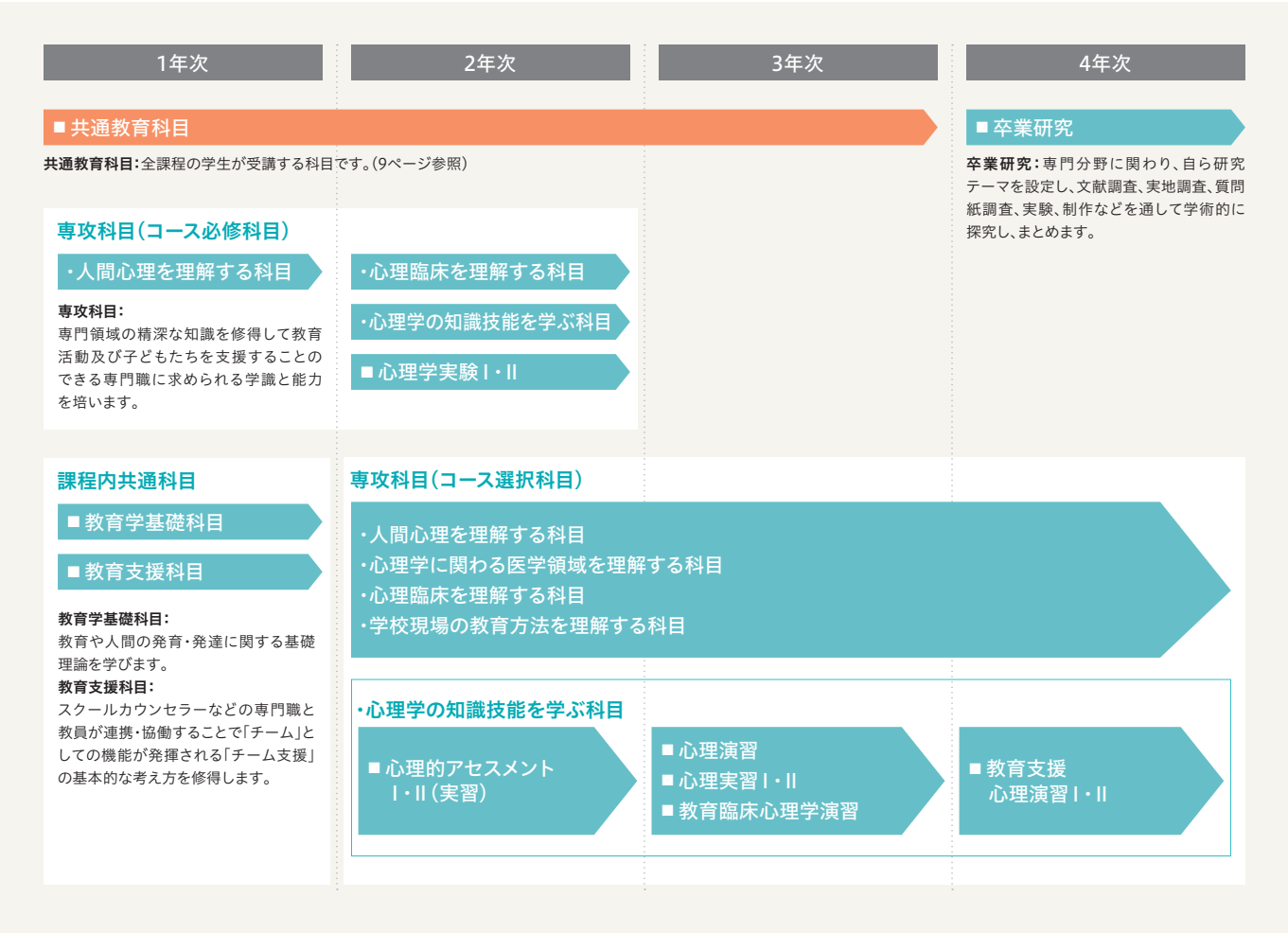
「教員になりたい！」その気持ちが
揺るがないものになりました。

教育実習先では3年生のクラスに配属され、授業だけでなく、STや文化祭、体育祭の準備や運営に携わることができました。特に勉強になったのは、現場の先生方の授業です。生徒の主体性を引き出す問いかけや、生徒を巻き込む意見の取り上げ方などを観察し、それを参考に自分の授業を構築していく過程で多くの気づきを得ることができました。緊張しながら臨んだ初回の授業で「分かりやすかった」と言ってもらえたときは、非常にうれしかったです。不安で張りつめていた気持ちが一気に和らぎました。また、生徒たちと密に関わったり、ほかの実習生とより良い授業をつくるためのアイデアや改善点を共有したりする中で、自分自身の成長も実感できました。実習を終えた今、教員という仕事のやりがい改めて感じています。確かに大変なこともありますが、生徒の成長を身近で感じられるこの仕事への情熱は、一層強まりました。

教育支援専門職養成課程4年間の学び

心理コースの履修例

■ 共通教育科目
■ 専門教育科目



心理実習、福祉実習、学校・自治体インターンシップ等

教育支援専門職養成課程では、主に3年次に「心理実習」、「福祉実習」、「学校・自治体インターンシップ」等の実習科目を開設しています。これらの実習は卒業要件ではありませんが、「心理実習」は公認心理師、「社会福祉実習」は社会福祉士試験の受験資格取得のために必要となる科目です。

教育支援専門職養成課程で目指せる資格、取得できる資格については15ページ参照

コース	主な学外実習科目	実習時期	実習の概要
心理コース	心理実習Ⅰ	3年次前期	保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働の5領域における見学等の実習を行います。この実習を通して、①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携および地域連携、③職業倫理および法的義務についての概要と実際を理解することを目標としています。
福祉コース	社会福祉実習Ⅰ	2年次後期	それまで学んだ社会福祉に関する知見を、児童、障害、高齢領域などの現場での実習を通して理解を深めます。ソーシャルワークが必要とされる現場の理解、ソーシャルワークの知識・技術を実習から理解します。さらに、教育現場でのスクールソーシャルワーク実習も行います。
	社会福祉実習Ⅱ	3年次前期	
	スクールソーシャルワーク実習	4年次後期	
教育ガバナンスコース	学校・自治体インターンシップ	3年次前期	学校・自治体等において、教育行政や学校事務のマネジメントや職務の遂行に関わる体験を通して、大学でのキャリア教育・専門教育を推進するとともに、大学での教育研究・学修と学校・自治体での体験を結び付けることを目標としています。

心理実習

先輩Voice



教育支援専門職養成課程
心理コース4年
三重県立川越高等学校出身

人の「心」に向き合う現場で、
心理職の役割の大きさを実感しました。

精神科病院の隔離室を見学した際、心理職の方から言われた「人間の心がここまでいくのだと感じてほしい」という言葉が今も心に残っています。隔離室が患者さんを守るためのものだとして、それが人権侵害を伴う現実には心が痛みました。そして、人に心がある以上、誰にでも関係のある場所になり得るのだと思い、心理職が果たす役割の大きさを改めて感じました。実習では、少年院や児童心理治療施設など、多様な現場の心理職の仕事を間近で見ることができました。また、特別支援学校の授業や精神科クリニックのリワークプログラムなど、実際の現場を体験できたことも良い経験になりました。実習を通じて感じたのは、現場ごとにさまざまな課題や苦労がある中で、心理職の方々が使命感をもって仕事に臨んでいるということ。今後、どの領域に進むかはまだ決まっていますが、実習で出会った心理職の方々のように使命感と誇りをもって仕事に携わりたいと考えています。

福祉実習

先輩Voice



教育支援専門職養成課程
福祉コース4年
鳥取県立米子東高等学校出身

大切なのは子どもたちの目線に立つこと。
将来は、子どもたちの幸せをつなぐ架け橋になりたい。

高校生のころから児童福祉に興味があり、実習先は児童養護施設を希望しました。実習先では、小学生から高校生までの子どもたち6人が生活するユニットの配属となり、食事、宿題、外遊びなど、施設での生活を共にしました。専門的な活動としては、中学生の支援計画の作成にも取り組みました。印象的だったのは、支援計画を作成する中で、「これは支援者が考える課題であって、子ども自身がそこに問題意識をもっているとは限らない」と実習指導者から言われた一言です。子どもの視点を大切にし、彼らの将来を見据えて支援を行うことの大切さを強く感じました。また、離れて暮らす親御さんからのプレゼントについてうれしそうに話す子や、面会を楽しみにする姿を見て、子どもたちの家族に対する思いの大きさを知りました。児童福祉司として子どもたちがより良い生活を送れるよう支援し、家族や関係機関とをつなぐ架け橋のような存在になろう、そう心に決めた実習でした。

学校・自治体インターンシップ

先輩Voice



教育支援専門職養成課程
教育ガバナンスコース4年
愛知県立岡崎北高等学校出身

市民の教育を支える専門職を目指して、
多様な視点で学びを深めていきたい。

市役所実習ではさまざまな課の業務を経験しました。特に印象深かったのは、図書館管理課での外国語案内調査です。図書館内の案内表記を一つずつ確認し、多言語対応の改善案を提案。広い館内を回りながら、多様な利用者の視点を想像し、分かりやすい案内表記を考えることは簡単ではありませんでした。しかし、提案後に課長からフィードバックをいただき、市の現状や利用者のニーズを深く理解し、それに即した提案が重要であることを実感。市民の皆さんにとってより良い施設にする意義を学べた貴重な経験でした。実習を通じて、市役所職員をはじめとする教育支援専門職が、多様な角度から市民の教育を支えていることを知り、この仕事に就きたいという思いがさらに強まりました。教育の在り方が問われる今、教育を支える立場で社会に貢献するという目標を胸に、学びを深めていきたいと思っています。